

ピアノの授業におけるオンライン授業での効果と課題

Effectiveness and challenges of teaching piano lessons online

田原淑子 仲谷徹子

Yoshiko Tahara Tetuko Nakatani

要約

ピアノの授業は本来演奏の技術スキルと表現力の向上を目指すもので、対面での授業が望ましい。学生も教員も適切なネット環境や設備のもとでのオンライン授業を行わなければ対面授業と同様な教育効果は難しいと思われる。しかし十分とは言い難い環境でのオンライン授業となった中で100分の授業時間すべてを自分のレッスン時間と捉え、教員とのやり取りはもちろんのこと、より良い演奏動画を撮るために練習する時間を増やすなど一定の効果上げることができた。また、教員からの指導コメントや撮影動画を見直す事で自分自身の演奏への客観的な振り返りをする機会が生まれたことも今までにない効果と言える。教員の指導においてはより一層学生に分かり易い言葉の表現での指導を工夫することや、動画、音声の双方方向のやり取りができる環境設備の充実といった課題が浮かび上がった。

はじめに

保育科の学生にとって、現場での幼児の表現活動を支えるスキルとしてピアノの技能の習得は欠かせないもののひとつである。ピアノをはじめとする鍵盤楽器を演奏しながら自らも歌うという弾き歌いは現場で即必要な技術でありその為にはかなりの熟達が必要とされる。本学では100分の授業(ピアノI・及びピアノII)において担当教員1人に対し3~4名の学生を受け持ち、各学生のレベルに応じて基礎技能を身につけさせながら弾き歌い曲の表情豊かな演奏を目標にきめ細かな指導を行っている。今年度はコロナウイルス感染症の流行で、表現系の授業においてもその教育方法や効果が大変厳しいと思われるオンライン授業の導入となった。前期は回数を減らしての対面授業でしのぎ、後期は対面とオンライン交互の授業形態となった。オンライン授業といっても教員と学生の双方方向の映像でのやり取りは、学内のネット環境やパソコン等の機材の設備が整っていない状態であり、また学生の方も同様な問題があることから不可能であった。本学で導入されたのはグーグルクラスルームのシステムを使ってのオンライン

授業である。ピアノの授業でも授業時間の確保と学生の日頃の練習成果のチェックという意味で、このシステムでの授業となった。そこで指導する側の教員のオンライン授業に取り組む意識や教育効果への考え方、また学生側から見て受講状況や意識を調査検証し、このような状況下での授業の在り方や授業効果について考察、模索する必要があると考えた。

研究方法

I オンライン授業の導入に向けて

I-1 授業の形式

クラスルームにクラスごとにピアノ授業枠を作り担当教員のトピックを設定した。各教員は授業開始前に出席提出フォームと課題提出フォームをアップする。学生は時間になれば出席後、課題提出フォームに学生が自宅においてスマホ等で撮影した自分の演奏動画をアップして送る。学生から送られてきた動画を再生し(音声はイヤフォンで聴く)、指導はその学生ごとに限定コメントを使って送り返す。授業時間内にそのやり取りを何度も繰り返す。学生は教員からのコメントを待つ間は自主練習をしている。コメントが送られて

きたらその指示に従ってやり直しの演奏や新しい曲の演奏の動画を撮り送るといったスタイルをとった。

I-2 授業導入の準備

教員(非常勤を含む)のパソコン操作や授業のやり方の研修を行い、出席確認フォームや課題提出フォームの作成をした。

I-3 学生へ説明

授業への入り方を周知させた。動画を撮るアングルを工夫することや、教員からの限定コメントと動画送信のタイミングなどのやり取りを効率よくするように事前にアドバイスした。

II-1 教員への質問紙調査

対象: 授業担当者(1年生担当者11名)

(2年生担当者13名)

時期: 第1回目 1年生担当者・・・10月22日

2年生担当者・・・10月23日

第2回目 1年生担当者・・・12月3日

2年生担当者・・・12月4日

内容:第1回目

A-1 オンライン授業への不安度(3段階)

A-2 どんな点が不安であるか(記述)

B-1 自分が行ったオンライン授業に対する教育効果(5段階)

B-2 良かった点(記述)

B-3 改善点(記述)

※第1回目の調査の後実際に授業をしていくうえで問題となる点、教員間の意思統一、学生対応の平等性を考えてガイドラインを作成した。

ガイドラインを踏まえての授業を行った後第2回目の調査を行った。

内容:第2回目

C-1 オンライン授業の不安度(3段階)

C-2 どんな点が不安であるか(記述)

D-1 ガイドラインに沿ったオンライン授業を行った後の

教育効果(5段階)

D-2 良かった点(記述)

D-3 改善点(記述)

II-2 学生への質問紙調査

対象: 1年生(76名)・2年生(82名)

時期: 12月10日・・・1年生

12月4日・・・2年生

内容:

1. オンライン授業の通信状況について(1つ選択)

- ① 問題なくできた。
- ② 途中でトラブルが少しあった
- ③ 途中でトラブルが多く発生した

2. オンライン授業の準備(1つ選択)

- ① 動画撮影のセッティングがうまくいった
- ② うまくいかなかった。

3. 先生の指導内容の理解度(1つ選択)

- ① よくわかった
- ② まあまあ理解できた
- ③ わかりづらかった
- ④ まったくわからなかった。

4. 3で②～③を選んだ人へ

どの点がわかりづらかったか(複数回答可)

- ① 指摘されている箇所がわからない
- ② リズムの間違い
- ③ 音の間違い
- ④ フレーズやプレス
- ⑤ 歌詞の間違い
- ⑥ 歌詞の発音の間違い

5. オンライン授業に向けての練習について(1つ選択)

- ① 良く練習して臨んだ
- ② まあまあ練習した
- ③ あまり練習しなかった

6. 通常の対面授業と比較してよかった点(記述)

7. 通常の対面授業と比較して悪かった点(記述)

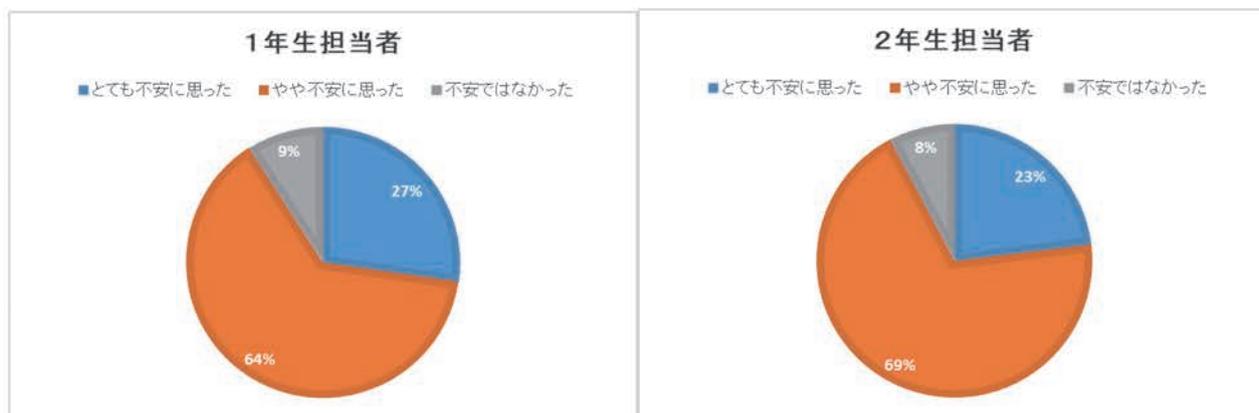
調査結果

オンライン授業開始前に非常勤のピアノ担当者へのパソコン操作の研修を行っている。第1回目の教員に対する質問紙調査は、実際にオンライン授業を2回行った直後(後期授業の6回目)に施行した。又2回目の調査は約1ヶ月後(1年生後期授業の9回目、2年生後期授業の11回目)に施行した。学生への調査については、1年生は後期授業10回目に、2年生は後期授業11

回目と対面とオンライン交互の授業が半分以上経過した時点で行った。

I 教員への調査結果

A-1: オンライン授業への不安度 (第1回目調査)



C-1: オンライン授業への不安度 (第2回目調査)



不安度に関しては1年生担当、2年生担当において担当者が重複していることもありほぼ同じ傾向である。

A-2: 不安な理由・・・記述したものをまとめている。

第1回目調査		
不安理由【複数回答】	1年生担当者(11名)	2年生担当者(13名)
パソコン操作がスムーズにできるか	6	8
限定コメントで指導内容がきちんと伝達できるか	5	5
学生がフォーム提出等うまく参加できるか	2	2

C-2: 不安な理由・・・記述したものをまとめている。

第2回目調査		
不安理由【複数回答】	1年生担当者(11名)	2年生担当者(13名)
パソコン操作がスムーズにできるか	3	5
限定コメントで指導内容がきちんと伝達できているか	3	3
学生がフォーム提出等うまく参加できているか	1	1

不安理由として挙げられているパソコンの操作について、第1回目は只々慣れない操作に不安を感じるという事であったが、第

2回目では、予想外のことが起きた時などの対応やちょっとした操作ミスで混乱して戸惑うなどの不安程度である。

指導内容の伝達に関しては、第2回目はガイドラインに沿って行っており、また担当教員各自が工夫した結果、不安が薄れてきている。

B-1とD-1の比較:教育効果

	1年生担当者(11名)		2年生担当者(13名)	
	第1回目調査	第2回目調査	第1回目調査	第2回目調査
①まったく上がらなかった	0	0	0	0
②少し上がった	3	3	0	1
③まずまず上がった	5	3	5	5
④良かった	3	5	8	6
⑤大変良かった	0	0	0	1

B-2:第1回目の調査においてオンライン授業で良かった点(記述)

利点・良かった点
1年生担当者・・・第1回目
・動画に撮るためにいつもより練習している。
・100分の授業時間を学生各自に対応できる。
・指導コメントを学生は何度も読み返すことで確実に見直しができる。
・動画を撮ることで、学生自身が自らの演奏を客観視でき、またそれに合わせて歌うなど新しい練習方法を取り入れられた。
・部分的に視聴しなおすことができ便利である。
・ある程度の完成度と曲数を準備する必要があるので、頑張る意欲とともに力が付く。
・やる気のある学生は、どんどん進むことができる。

2年生担当者・・・第1回目
・きちんとしたものを送らないといけないという自覚が生まれ、よく練習している。
・動画のアングルなど工夫してくれ、指導が的確にできる。
・再履修の学生も思いのほか良く頑張って動画を送ってくれる。
・アドバイスはシンプルなものになるが、注意して良く直している。
・時間内に練習し送り返すなど真面目な姿勢が見られる。

心配していたよりも思いのほか学生の練習と頑張りがみられた。

B-3:第1回目の調査において改善点(記述)

改善点
1年生担当者・・・第1回目
・仕上がっている曲についてはコメントしやすいが、そうでない曲はコメントに時間が掛る。
・譜読みが難しい学生にはオンラインは効果が薄いように感じる。
・対面授業の内容をオンラインのことを考慮して計画する必要がある。
・動画撮影の仕方や住居環境により、音声が聞こえにくい又、他の音や声が入っていたりする。
・リズムの間違いの指導がなかなか難しい。
・歌い方、ブレス、フレーズ、指使いなど細かい指示が伝えにくい。
・学生からのフォームの提出や連絡などが遅れたり、送られる回数に偏りがある。

2年生担当者・・・第1回目
・コメントと動画のやり取りに時間がかかる。
・教員からのコメントが届いたことが学生側から分かりづらいらしい。
・授業終了間際に、動画が送られてきた場合、十分に指導しきれない。
・何小節目の何拍目という指示では伝わりにくいが、歌詞の部分で指摘すると理解しやすい。
・弾き方の細かいニュアンスは文章だけでは伝わりにくい。
・教員の演奏動画が送れるシステムがあれば、教育効果がさらに上げることができる。
・学生の横で実際に一緒に弾いたり歌ったりできないので指導しづらい。
・苦手な学生に対して、右手、左手だけの動画等を何度も送らせていると時間足りなくなる。
・リズムの間違いの指導は難しく、対面授業との組み合わせでする必要はある。

D-2: 第2回目の調査においてオンライン授業で良かった点(記述)

利点・良かった点
1年生担当者・・・第2回目
・学生も教員もオンラインに慣れてきてスムーズなやり取りができてきている。
・対面の時指使いや音などきちんと確認できている学生はオンラインでも上手く進めることができる。
・対面とオンラインでの授業の授業内容を分けることで、効率よく授業を進められるようになった。
・理解力のある学生は教育効果がより得られている。
・ガイドラインに沿ったピンポイントの指導で短い動画送信等で教員と学生のやり取りの回数が増えた。
・ガイドラインを参考し指導することで、どの学生にも同じような伝えかたになってよかった。

2年生担当・・・第2回目
・オンラインでの授業の特徴を活かせるように、対面のとき工夫することで上手く進めるようになった。
・ガイドラインに示されているような伝え方で指導すると上手くいくことができた。
・出席、欠席、遅刻の確認がガイドラインによって統一することができた。
・曲全体だけでなく、部分的な動画送らせることで、積極的に参加するようになった。
・歌の音程、自宅での椅子の高さや座り方などについて細かい点も指導できる。
・意欲的に練習する学生ほど仕上がりも良く、内容を理解できている。
・注意点が記録として残るので良い。

D-3: 第2回目の調査においての改善点(記述)

改善点
1年生担当者・・・第2回目
・対面の時の指導をもっと学生一人一人に合わせてやっておくようにする。
・出席、遅刻、欠席について内容を学生に徹底させる。
・細かく指示しその度に動画を送らせていると時間が足りなくなる。
・やる気を起こし、分かりやすい指導ができるようにコメントの言葉を的確に選ぶ努力が必要である。
・リズムの指導について難しく、対面での指導と共に説明の仕方にさらに工夫がいる。

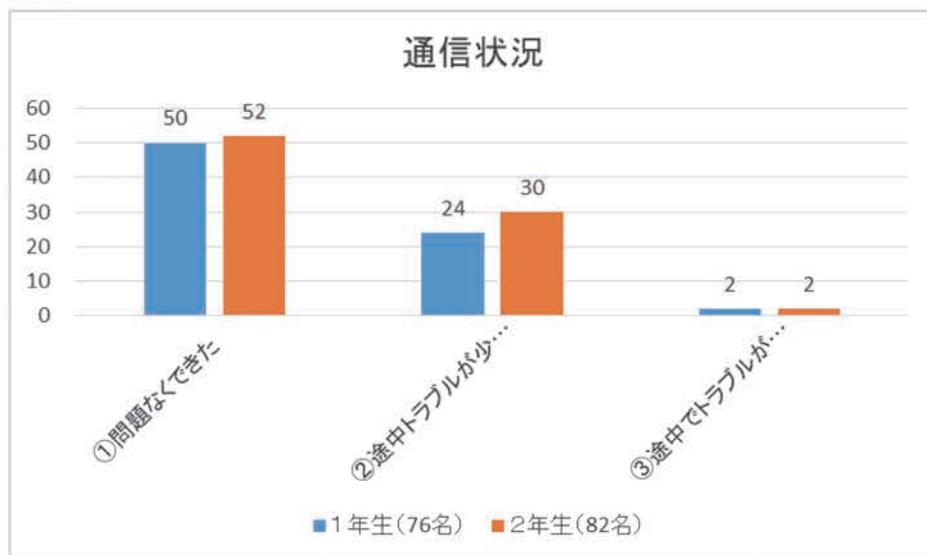
2年生担当者・・・第2回目
・双方向のやり取りができればもっとスムーズ指導ができる。
・指導の言葉を的確にするなど、もっとわかりやすくする工夫したい。
・コメント文章での指導はピアノが苦手な学生にとって限界がある。
・教員の模範演奏で学生がすぐ理解できることもコメント文章にすると時間がかかる割に理解しづらい。
・動画撮影の具合でピアノや歌声が聞き取りにくいことがある。
・動画撮影や送信のスピードなどネット環境に左右されることの対策が必要である。
・オンライン授業を踏まえて対面授業の計画が必要。

II 学生への質問紙調査

1年生は76名、2年生は82名の回答を得た。棒グラフの上の数値は回答した学生数を示している。

1. オンライン授業の通信状況について
2. 遠隔授業の準備・・・動画撮影のために自宅での携帯等のセッティング等の準備
3. 先生の指導内容の理解度について
4. 分かりづらかった内容について【複数回答可】・・・3において①よくわかったと回答した以外の学生を対象とした質問(②・③と答えた学生)
5. オンライン授業に向けての練習について
6. 対面授業とオンライン授業を比較して良かった点
7. 対面授業とオンライン授業を比較して悪かった点

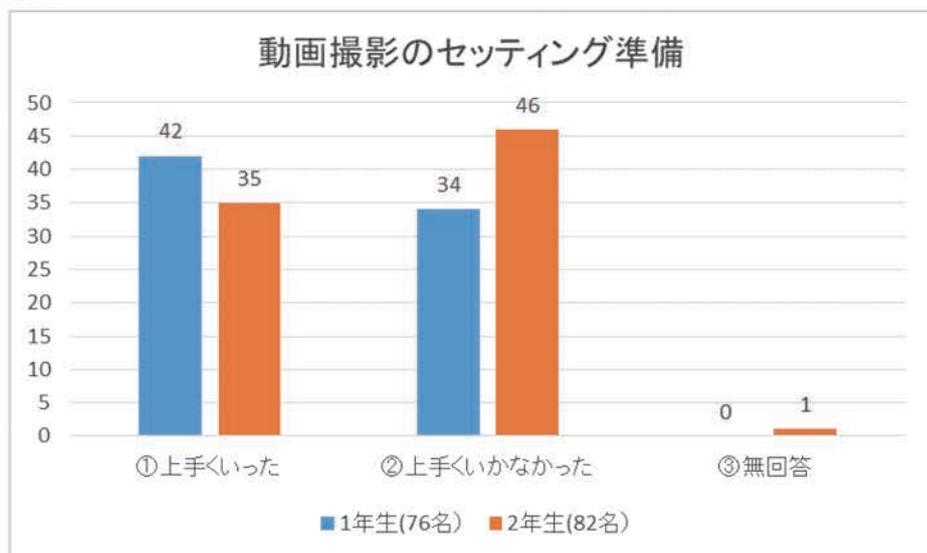
質問-1



1年生は76名中50名(62%)、2年生は82名中52名(66%)の学生は問題なく通信が行われている。

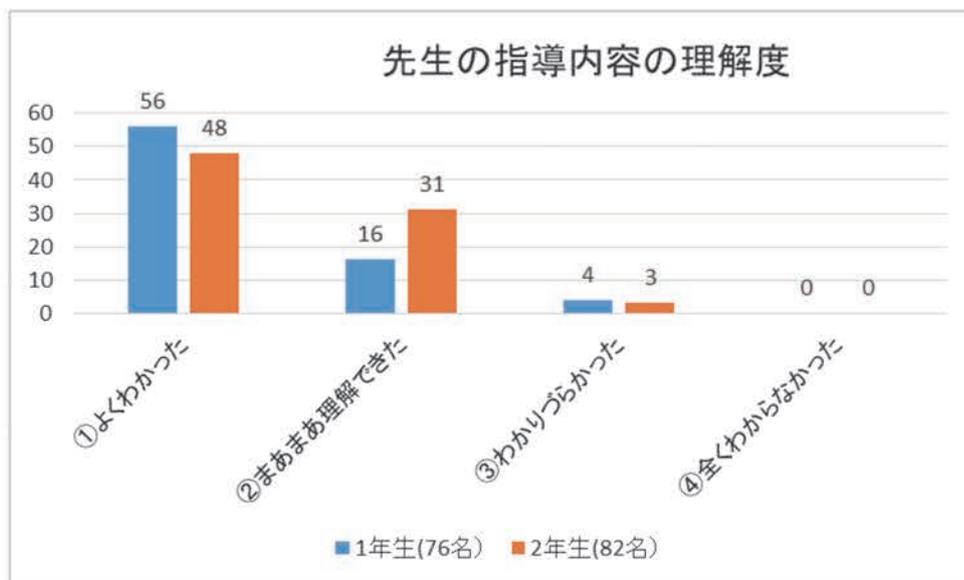
途中でなんらかのトラブルがあったのは1年生24名(31%)、2年生30名(36%)、トラブルが多く発生した学生は2名ずつで1年生は3%、2年生は2%となっている。

質問-2

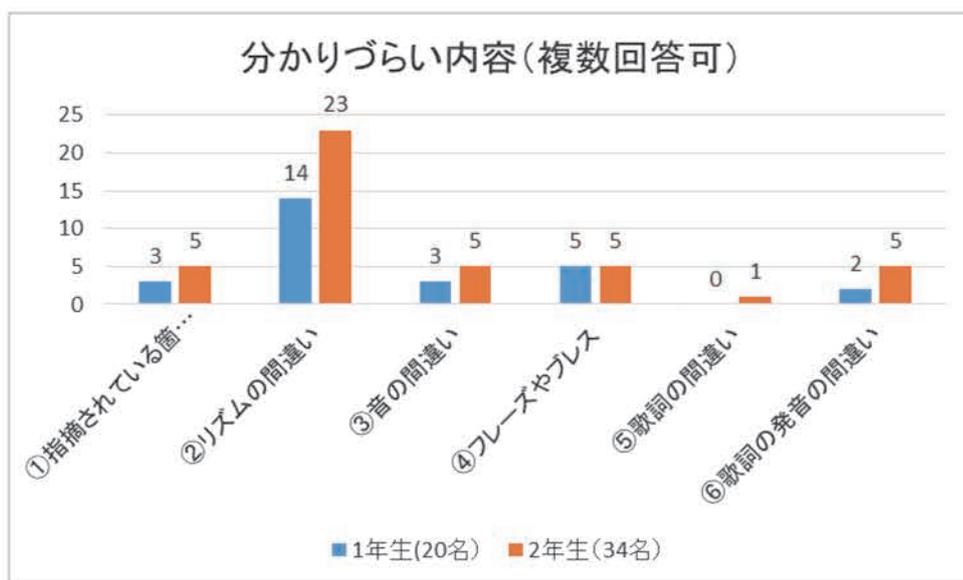


動画撮影に関して事前に学生に説明し、自宅での撮影準備についてアングル等工夫するように促してオンライン授業に入った。しかし、住宅事情やスマホでの撮影となるとなかなか思うようにいかなかった学生も半数以上いたことが分かった。授業をやっていくうちに、スマホを固定できるキャッチャーを使用、アングルを変えるなど色々と工夫をし、又家族の協力などもあり撮影に対応し授業に参加していくことができた。

質問一3



質問一4



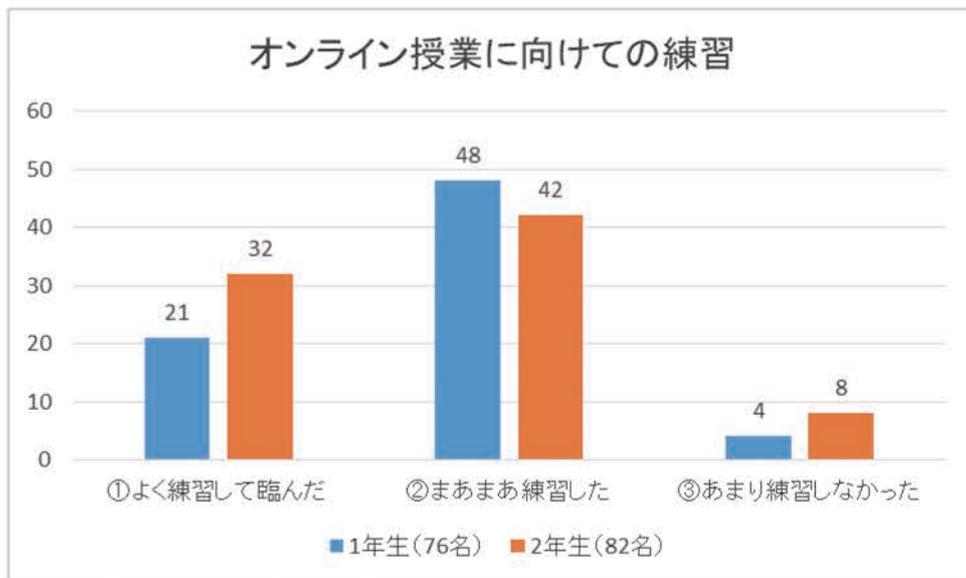
担当教員から指摘されている箇所が分からないと言う①の項目について、対面の場合は「この・・・」という風にすぐに指し示すことが容易であるが、文章でのコメントでは何小節目とか、右のページの何段目の云々と手間取り、学生にとって分かりづらくなる。教員も課題曲の本伴奏とアレンジの楽譜の2種類を用意して授業に臨んでいる。学生によって使い分けしているためでもありまた、本伴奏とアレンジを対比させながら内容を伝えるためでもある。

②のリズムの間違いについては時間的感覚の事なので、学生は、正しいのか間違っているのか、直せているのかどうか一番わ

かりづらい点であろう。教員の方も特にオンライン授業では指導に頭を悩ます項目である。

④のフレーズやブレスの間違いの項目も、分かりづらい項目として当然あげられることが予想できた。音楽の流れや息遣い、歌詞の内容把握ができていないと正しくはならないので、指導を要する項目でありまたオンライン授業では指導しにくい項目のひとつでもある。

質問一5



質問一6 ……記述されたものを項目別にまとめ表にした。

対面授業とオンライン授業を比較して良かった点	
1年生	
授業時間内の練習時間が増えてよかった。	19
自宅なので自分のピアノで弾くし、緊張しないでやれる。	17
自分のペースで練習しレッスンが受けられる。	11
100分の授業を自分のレッスン時間として過ごせる。	9
自分の演奏や先生からのコメントを見直すことができる。	6
すぐに先生からのコメント来て見てもらえる。	3
先生からのコメントがわかりやすかった。	2
2年生	
授業時間内の練習時間が増えて良かった。	20
自分の演奏を聴き直すことや先生のコメントを何度でも見直すことができ勉強になる。	11
100分の授業を自分のレッスン時間として過ごせる。	9
自分のペースで練習ができ良い演奏の動画を送れる	6
自宅なので緊張しないで弾くことができる。	5
細かい指示やその部分の指摘に対応して練習できる	3
良い演奏を送ると頑張る意欲が出て、練習できる。	2
自宅に居て楽である。	2
コメントが文字なので復習しやすい。	1

1年生、2年生とも100分の授業時間内は練習、動画撮影、送信、コメントの確認などしっかり取り組んでいることが伺える。自分の演奏を聴きなおしたり、教員からのコメントを見直したりとオンライン授業ならではの行動も学生自身が行っており、今までの授業ではなかった客観的に自身の演奏を捉えることもできている。

質問—7 ……記述されたものを項目別にまとめ表にした。

対面授業とオンライン授業を比較して悪かった点	
1年生	
対面授業(直接指導)の方が分かりやすい。	14
コメントの指示が分かりにくかった。(特にリズムやテンポに関して。)	12
直ぐに質問ができない	7
動画を撮るのが難しかった。	8
動画を撮るのに時間がかかった。良い演奏を撮るためにやり直しなどするから。	14
動画を送るのに時間がかかった。	12
ネット環境が悪かった。	6
先生からのコメントが来るまでが不安。	5
家庭の事情で動画を撮るのに気を遣った	2
先生とのやりとりが煩わしい	2
動画を撮るのに緊張する。	1
2年生	
対面授業(直接指導)の方が分かりやすい。	19
コメントの指示が分かりにくかった。(特にリズムやテンポに関して。)	15
コメントが直ぐに来ない。	5
動画を撮るのが難しかった。	8
動画を撮るのに時間がかかった。良い演奏を撮るためにやり直しなどするから。	16
動画を送るのに時間がかかった。	11
ネット環境が悪かった。	6
コメントがいつ来ているか分かりづらかった。	3
家庭の事情で動画を撮るのに気を遣った。	3
自宅なのでやる気が出なかった。	3
通信料が掛かる。	2
動画を撮るのに緊張する。	1

考察

これまで経験したこと無かった社会状況の中で、手探りの状態で始められたオンラインでのピアノの授業であった。演習科目であるピアノの授業は、レクチャーとともに学生と教員との実際の表現行動つまり実技(演奏)を基盤に成り立ちその教育効果が得られる科目である。本学の教育環境において果たしてどこまで通常授業のような教育効果が上げることができるかは全く未知数であった。「一人ひとりのレベルに合わせた手厚く丁寧な指導で、現場で役立

つスキルを身につけさせる」を目標にしている中で、現状ではその教育効果は当初はほとんど見込めないと考えていた。しかし、隔週に対面授業を行うよりも、対面とオンライン授業の交互に行うことによって、毎週学生の練習の進み具合をチェックするという意味で、学生達にとって一定の目標が明確化できるのではないかと考えられた。2週間野放し状態にならないだけでも良いのではないかとあまり期待も持たずにスタートした。

担当教員は専任2名と非常勤8名は1年生、2年生両方

を受け持ち、1年生のみ担当する非常勤1名、2年生のみ担当する非常勤3名という構成である。専任ともどもパソコンでの授業は未経験であり、そもそも非常勤の教員の中ではパソコン操作に不慣れな方もおり、研修は行ってはいるものの指導となるととても不安であった。「百聞は一見に如かず」と言われるが、通常では教員が模範を示す演奏を見せ、その場で学生に付き添いピンポイントで練習する事で理解させることができる。時間にして数十秒であろう。しかしこの内容を今回のオンラインでの授業では、①学生が動画を撮る②動画を送る③教員がそれを見る④コメントで指導内容を書く⑤コメントを送る⑥学生はコメント内容を読む⑦指摘されたことを練習する⑧再度、動画を撮る⑨動画を送る⑩教員がそれを見て確認するという様な手順になる。動画を撮るにも送信するにも学生たちへの調査でも明らかであるように、様々な条件が重なり時間はスムーズにいても15分以上はかかる。一連の流れで改善されればよいが、特にピアノの苦手な学生は直せているか分からない、またどこをどう直せばよいかも分からないということもよくある。また教員のコメントでどう説明したらよいか言葉を選ぶことやパソコン操作に時間を取られるというタイムロス、さらに学生側の一番の問題は動画撮影や送信に時として時間がかかる事である。

実際に授業を進めていく中で細かな問題が多く出てきた。学生には対面授業の折りに録画の取り方の工夫や出席フォームを提出した後はすぐ動画を送れるように練習準備をしつかりすることなど、また教員からのコメントを見るタイミング等を説明するようにした。学生への周知事項も含め、教員のコメントでの指導力の均一化など第1回目の教員への質問紙調査の後、問題点を再考しガイドラインを作成した(※参照)。教員自身も各自工夫し、細かな問題に対処してはいたが、ガイドラインを作成しそれに準じてやっていくことで、どの学生にも統一的に対応できるようになったといえる。しかし、実力もやる気も様々なレベルの学生と向きあわなければならない教員の負担は対面授業よりも大きいものがある。コメント一つとっても音楽の専門用語を使って文章にするとシンプルで良いが、ピアノが苦手な学生にとっては余計に理解できないということも生じた。分からないから練習が嫌になり、練習しない、ますます合格する数が少なくなるといった悪いスパイラルに陥る。良く練習し頑張る学生とそうでない学生の教育効果の差はオンライン授業では他の授業科目と同様大きくなっていると感じられ

る。

本学の学生の特徴としてほとんどの学生が真面目であるという事から、画面の小さいスマホを使っての不自由でとても疲れるオンライン授業にも良くついてきている。良い演奏を見てもらいたいという思いで何度も動画を撮り直したり、時間いっぱい練習に取り組むなど現状を受け入れて授業を受けていることは感心なことで、思わぬ教育効果を生んでいるように思われる。

しかし、隔週に対面授業があるからまだこのオンラインの授業が成り立っていると考えられる。教員にとって指導の仕方、学生にとって理解が困難な内容は「テンポ」、「リズム」「間合い」など音楽の時間的要素である。教員が学生のそばで歌うと学生はとても演奏しやすいと言う。其れは教員が単に正しい音程、正しいリズム、正しい発音で歌ってサポートしているからではない。「音楽をうたっている」からである。これはピアノ演奏であれ、弾き歌いであっても同様である。まさに「表情豊かに」という本来の音楽の学習を学生は教員の「うたう」という表現に乗っかり音楽の流れを体感しながら行っているのである。そして結果的に演奏がしやすくなり、そのようなレッスンを重ねることにより音楽そのものの学習に繋がっていく。しかし、その音楽性を養う前の基本となる部分でのつまり「リズム」等の指導がオンラインでは一番の問題として浮かび上がってきた。

1年生で通常通りの授業を受けてきた現2年生は今回の授業形態に対してかなり戸惑いや不満があると言えるであろう。しかしながら、普段自分の演奏を録画して見直すという事は無いので、その点に関しては客観的な振り返りをすることが出来る機会が生まれたことは良い教育効果をもたらしたと言える。

ただ今後色々な社会状況の変化に伴いオンライン授業の必要性が出てくることも多いにあり得る。そのことを想定して学生にタブレット端末等を何らかの形で持たせることや、教員側にカメラ付きのパソコンの配給やネット環境を整える事など、根本的な改善が必要であると言えるのではないだろうか。

謝辞

今回のオンライン授業を進めるにあたり、ピアノの授業担当者へのパソコン操作の研修を丁寧に行ってください、また各授業時間にはトラブルに備え待機しサポートをしてくださった大道えりつ先生に感謝いたします。学生の送信トラブルにも対処してください、授業を支えてくださったお蔭でこの研究につながったことをここに記して御礼申し上げます。

※参照

ピアノⅠ・ピアノⅡのグーグルクラスルームを使用した遠隔授業のガイドライン

授業前の準備

- ① マイドライブに授業日ごとにファイルを作成
確認フォームと課題提出フォームに授業日の日付けと回を入れる。
(★印のついた原版は残しておく。各授業日のものは★を削除する)
- ② トピックの自分の授業の下書き
コメント・出席確認フォーム・課題提出フォームを貼り付ける。
- ③ 学生にアップする前に自分の担当する学生を選んでおく。
- ④ 課題作成ボタンを押す。→学生に見えている状態
- ⑤ 時間になれば出席確認

出席について

*出席・・授業開始 10 分以内出席確認できている。

1 回目の課題提出が授業開始より 30 分以内でありその後限定コメントによるやり取りや 2 回目以降の提出ができています。

通信トラブル等で動画の課題提出が遅れた、もしくは送信ができなかった場合等ではっきりとした理由がありその内容を担当教員に限定コメントで確認できている場合は出席とし、対面授業のときそのときの動画を確認する。

*遅刻・・授業開始より 10 分以上過ぎて出席したが 1 回目の課題提出が授業開始より 30 分以内にできています。(ただし出席確認フォームの遅れた理由等のコメントがあること。) その後、限定コメントや動画の提出等のやり取りがある。

*欠席・・出席確認フォームでの出席確認はできているが、その後課題提出がまったくない。
また限定コメントへの返答も返ってこない。

出席確認フォームを提出しないで、1 回目の課題提出が 30 分以上たって送られてきた。(一応出席確認フォーム未提出の理由を限定コメントで尋ねる。「欠席」であることを伝え、対面授業で遅れてきた場合同様に、レッスンは一応時間の許す範囲で行う。)

出席確認及び課題提出フォームの提出が授業開始より 30 分以上過ぎて送られてきた場合。「欠席」であることを伝えて、対面授業で遅れてきた場合同様に、レッスンは一応時間の許す範囲で行う。)

※学生に①・②・③について説明伝達する。

授業の進め方

*学生は 1 人で授業参加する。(友達と一緒にその場に居ないように)

*学生の生活環境や家族の声や姿が動画にできるだけ写らないよう気を付けるように注意する。ピアノを弾く手元が見えるようなアングルで撮影するよう工夫してもらう。

*1 曲ずつ送信するように伝える。

- *学生が教員からの限定コメントが届いたことが分からない(着信音がない場合や自分の練習している音で聞こえない等)ことがあり、教員の指示する行動に移るのが遅れる。教員と学生お互いの時間のロスを少なくするために、動画送信後10分程度したら、限定コメントを確認するように伝える。
- *限定コメントで指導した後再度動画を送らせる場合、指摘した注意点の確認としてその曲全体でなく、限られた部分や特定の番(2番だけというように)を指定するなどして、短時間で撮影・送信・限定コメントのやり取りというサイクルの回数を増やす。(特に長い曲など)
- *音の間違いやリズムの間違いの指摘は歌詞と結びつけて、どの場所なのかをわかりやすくする。
例:「バスごっこ」・・・はじめの「おとなりへ」の歌詞の「お」の部分右手の音「ド」ですよ。
あなたは「レ」を弾いています。
「さんぽ」・・・「さかみちー」の歌詞の部分左手は和音(ファ・ラ♭・ド)で3拍しつかりとのばす、次の4拍目4分音符のラの♭忘れずに。
「雪」・・・「ふっても、ふっても」の右手のリズムはタン・タタ(4分音符+8分音符2つ)です。「ゆーきや」のところのようにタッカタッカの付点のリズムではありません。他の部分も楽譜を良く見て付点とそうでないところを弾きわけること。
- *歌のプレス、ピアノのフレーズ、休符に関する指摘も歌詞と結びつけて。
「○○○○」の歌詞の後に○休符があるので、きちんと切りましょう。プレスもして、ピアノも弾きなおしてフレーズを区切る・・・など
- *タッチの違いや細かいニュアンスは分かりづらく指導しにくいですが、その学生のレベルに合わせてコメントの言葉を考える。今日は合格に今一步という場合も含めて、「対面の時にもう一度、一緒にやってみましょう」「ほとんど良いですが、もう一度聴かせてください。」と次週に向けて練習を継続しレベルアップしようという気分を出させる。
- *ほとんどの学生は録画を撮るということで、あまりボロボロの状態ではいけないと緊張感を持ち練習をし、撮影に臨んでいます。練習の成果は少しでも評価し褒めてください。
- *遠隔での準備として、対面の時にポイントとなる部分の指番号や躓き易いところの先取り指導等をするなど、それぞれの学生に合わせて対面と遠隔をうまく連携できるよう計画する。
- *譜読みが遅い学生等には、次回の授業までに練習しておく事柄をスモールステップで明確に伝える。
(特に対面授業の時は次の遠隔授業が無駄にならないように)
例:右手(or左手)の指使いを決め楽譜に書き込み、この通りに弾けるようにしてくる。
片手だけの練習を確実にしてくる。
右手と歌を合わせてくる。
リズムのややこしいところなど部分的にピックアップして練習してくる。
(新しい曲になるとき、漠然と弾いてこさせない)
- *その授業時間の学生からの最終動画の送信は、動画に対する指導や次週へ向けてのコメントを返す時間を考えて、終了時間の10~15分前までに送ってくるように指示するなど、時間配分を考える。
(指示はレッスン状況にもよるが、後半ごろにでも「〇〇時〇〇分ごろまでに送ってください。」等のコメント。技術的・時間的に無理な場合は「時間まで練習続けてください」等のコメント。)